

<b>2. 事業の概要と成果</b>	
(1) 上位目標の達成度	公立学校教員と子ども支援センター職員向けに演劇・美術・音楽・心理ケアの研修を実施、教員、職員は研修で得た学びを各授業・活動の中で実践した。子ども支援センターで保護者向けのワークショップを実施し、ジェリコ市および市周辺の学校内外における子ども支援の充実化に寄与した。
(2) 事業内容	<p><b>1. 対応能力向上研修</b></p> <p>ジェリコ市内の公立学校6校の教員および子ども支援センター職員に対して演劇、美術、音楽、心理ケアに関する研修を実施した。当初、当該教科の専任教員を対象に研修を行う予定だったが専任教員の雇用に各校ばらつきがあることを考慮し、教員の教科は問わず各授業の中で演劇・美術・音楽の技術を取り入れられるよう、アラビア語や英語の教員、および学校カウンセラーを研修対象として選定した。子ども支援センター職員は、音楽担当、演劇担当、演劇兼音楽担当、特別活動担当、心理担当の5名の職員を雇用した。研修の講師は教員研修の実施経験およびノウハウを有するパレスチナの3団体から派遣を受け、教員や職員が各授業・活動の中で実践的に使用できる技術を学べる場を提供した。研修は、演劇・美術・音楽の要素を授業に取り入れることで、子どもがよりわかりやすく、学習に取り組みやすくするとともに、不安軽減や協調性、社会性の醸成、非暴力コミュニケーションのスキル向上など、心理的ケアの側面を含めた研修を実施した。公立学校の心理カウンセラーと子ども支援センター職員には心理ケアの研修を実施、子どもと接する際の基本技術やルール、保護や対応の方法について指導した。</p> <p>研修実施回数：</p> <p>[演劇] 教員 11名、子ども支援センター職員 5名 3時間×12回</p> <p>[美術] 教員 5名、子ども支援センター職員 5名 3時間×13回</p> <p>[音楽] 教員 5名、子ども支援センター職員 5名 3時間×13回</p> <p>[心理ケア] 学校カウンセラー5名 子ども支援センター職員 8名 3時間×12回</p> <p><b>2. 研修の学びを活かした教育活動の実践</b></p> <p>1. の研修を受けた教員及び子ども支援センター職員が、対象校の生徒やセンターに通う子どもに対し、授業・活動の中で研修内容を実践するとともに、教育活動を実施した。具体的には、アラビア語の授業で歌を取り入れて読み仮名について学ぶ、英語の授業で寸劇を取り入れる、宗教の授業でアラビア語の発音を学ぶ際に絵を取り入れるなど、各教員が研修での学びを発展的に工夫し、子どもたちの参加や学習の理解を促す授業運営を行った。また、グループワークや感情を体で表現する技術、集中力を保つためのゲームを授業に取り入れることで、感情表現やコミュニケーションスキルの習得、不安感の軽減、チームワークを通じた社会性を学ぶ機会を提供した。心理カウンセラーは、個別のカウンセリングの他、子どもの人権や暴力、時間の使い方等を学べる授業を学校の時間割の中で実施した。子ども支援センターについては、演劇・美術・音楽の教育活動を毎日実施し、活動を通して子どもたちがそれぞれの技術を学ぶだけでなく、チームワークや非暴力コミュニケーション、感情表現を学べる場を提供した。また、水の日や緑の日などには、関連した参観日を設け、子どもたちが日々の活動を発表できる場を設定した。また、当団体職員と子ども支援センター職員によるミーティングを定期的に関催し、子どもの名簿や資機材管理表の作成、活動案の提案、週計</p>

	<p>画・週報の作成等を指導した。</p> <p>各授業・活動は、学校長とセンター長の日常的なモニタリングに加え、研修を担当した講師と当団体職員でも実施、モニタリング結果を教員や職員に共有する個別相談も行い、各個人に合わせて細部にまで指導が行きわたるよう考慮した。</p> <p>講師と当団体職員によるモニタリング・個別相談の実施回数：  [公立学校]教員・カウンセラー1名につき3回  [子ども支援センター]職員1名につき3回</p> <p>本課外教育活動に必要な資機材（演劇等衣装、楽器、画材等）を対象校6校、子ども支援センターに提供し、本事業後も継続して課外教育活動や地域の子どものための活動が可能となるよう、学校、センターの体制整備を図った。これら資機材については、各学校教員、センター職員が維持管理の責任を担うよう、提供資機材のリストを作成、取り扱い方法について共有した。</p> <p><b>3. 保護者向けワークショップの実施</b></p> <p>子ども支援センターや地域の保護者に対し、子どもが抱える問題やその対応法に関して理解を深めるワークショップを10回（20時間×2グループ）開催し、延べ94人が参加した。本ワークショップは、子ども支援センターのセンター長、心理・保護者担当スタッフと、心理ケアを行っているパレスチナの団体で実施し、家庭や地域で子どもや未成年が抱える課題、それへの対処法などについて保護者が学べる機会となった。まず参加保護者から悩みを聞き、体罰に頼らないしつけの仕方、思春期の子どもへの接し方、親子間でのコミュニケーション方法など、課題に対する対処法を指導した。研修後、保護者が子ども支援センター職員に相談に来る事例も見られた。ジェリコは地域的な特徴として、保守的で家庭内での問題があまり外に出ない傾向にあり、相談できる施設も少ないため、当ワークショップを通じて保護者同士が繋がり、お互いの悩みを共有し、一緒に考える時間にもなった。また、保護者が子ども支援センターとつながることで、常時相談ができる連携体制の構築に寄与した。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>1. 対応能力向上研修</p> <p>■直接裨益者  対象校6校の教員21名、学校カウンセラー5名、子ども支援センター職員8名</p> <p>【目指す成果】</p> <p>1-1. 対応能力向上研修に参加した教員及び子ども支援センター職員が、子どもが抱える課題への対応能力を高める。</p> <p>【結果】</p> <p>1-1-1. 研修に参加した教員及びセンター職員の9割が、研修内容が日々の子どもの問題対応時に有効と答えた。具体例として、子どもが積極的に授業に参加するようになった、授業中により落ち着くようになった、規律を守り、教室での暴力が減った等の回答が得られた。</p> <p>1-1-2. 学校長や教育局、およびセンター長の8割が、研修に参加した教員・職員の対応能力の向上および前向きな変化を確認した。具体例として、授業に工夫が見られるようになった、より準備がされ、授業がより秩序立ち、静かになった等の意見があった。一方で、研修内容は基礎的なことが多く、もう少し発展的な知識・技術を教員が学べることを期待していたとの回答もあった。</p>

	<p><b>2. 研修の学びを活かした課外教育活動の実践</b></p> <p>■直接裨益者 対象校 6 校の教員 21 名、学校カウンセラー 5 名、子ども支援センター職員 8 名 6 校の研修を受けた教員の授業を受けた生徒数 1,680 人（6～15 歳）、子ども支援センターに通う 62 人（5～15 歳）</p> <p>【目指す成果】</p> <p>2-1. 課外教育活動に参加した子どもが自己表現の場や他者と共同で作業を行う機会を持つことで、精神的な安定と社会的能力（自己表現力、チームワーク、協調性等）を得る。</p> <p>【結果】</p> <p>2-1-1. 不安感や社会性、学校生活に関するアンケート結果（活動に参加した子ども約 400 人に事業前、後に実施）から、「よく友だちと喧嘩してしまう」「自分の思いを上手に表現できない」「新しい環境になることは不安だ」では 6 割に、「心配し過ぎてしまう」「よく眠れない」では 7 割に、「長い時間静かに座っていることができない」では 8 割の子どもに改善が見られた。また、「友だちがどう感じるか気を付けて接するようにしている」「人の言うことを注意深く聞くようにしている」等の質問では「はい」と答えた子どもの割合が事業後の結果の方が増加している。</p> <p>2-1-2. 対象校の教員およびセンター職員の約 7 割が子どもたちに変化を感じている。担任する子どもが静かに落ち着いて授業に取り組むようになった、意欲的に授業に参加するようになった、集中力が高まった、グループワークを通じて他者と関わる態度に良い変化が見られた、授業を楽しむようになった等と回答した。保護者から、子どもが教科を好きになったようだとの好意的な意見も見られた。</p> <p><b>3. 保護者向けワークショップの実施</b></p> <p>■直接裨益者 子ども支援センター利用者の保護者、地域の保護者延べ 94 人</p> <p>【目指す成果】</p> <p>3-1. 対象地の保護者において、子どもが抱える問題やそれへの対応について理解が高まる。</p> <p>【結果】</p> <p>3-1. ワークショップに参加した保護者の 10 割が、ワークショップの内容が自身の子どもへの対応に有効と答えた。具体例としては、子どもの成長年齢に合わせた対応の仕方、親子間のコミュニケーション方法、家族の中で問題が起きた際の対応方法、体罰に頼らないしつけ方法などを学ぶことができたと回答した。また、暴力をふるいがちで保護者や職員の指導をなかなか聞かなかった子どもが落ち着き、礼儀正しくなったとの回答も得られた。</p>
(4) 持続発展性	<p>当事業の研修を受けた公立学校教員、および学校カウンセラーが今後も各授業の中で研修で習得した演劇・美術・音楽・心理ケアの技術を生徒に提供できるよう、モニタリングの他、個別のカウンセリングを実施し、研修で得た学びを日常的に提供できるよう、指導することに努めた。学校長は引き続きモニタリングとフィードバックを実施し、教員の授業運営を手助けしていく。子ども支援センターについては、当事業終了後もスタッフを継続雇用できるよう、予算やドナー確保についてジェリコ市に働きかけている。各校、子ども支援センターに提供した楽器や画材、演劇用衣装などの資機材は各教員、職員が管理し、事業終了後も使用される予定である。</p>